

中学・高等学校

部門目標

リベラルアーツ教育を推進し、新たなものを創造する「0 to 1」^{ゼロ トゥ ワン}の発想が育つ教育を実践する。
サステナブルな活動を通して、困難を乗り越える「心の力」を育み、国際社会で活躍・貢献できる人材を育成する。

重要施策

1

施策達成のストーリー （現状の課題・達成後の姿）

リベラルアーツ教育とキャリア教育を連携させ、一人一人の個性を伸ばす進路実現を推進する

本校では「本物に触れる」実践や知的好奇心を向上させる取組を実践してきたが、キャリア教育に繋がらない取組もある。そこで、時代に即した取組に進化させると共に、それにより培ったリベラルアーツをキャリア教育に繋げる取組を強化し、参加生徒数の増大を図る。そして、生徒の学力を測りながら、「個性の尊重」が実現できる生徒個々に応じた多様な進路実現を具現化する。

評価指標

6年後（2028年度）の到達目標について

「本物に触れる」教育実践の取組数と参加人数

- ・「本物に触れる」教育実践と知的好奇心を向上させる取組を充実させ、キャリア教育との連携を強化できている。
- ・多くの生徒がこれらの教育実践の取組に参加できる体制を構築できている。
- ・教育実践の取組数が年間150件に達している。
- ・教育実践の参加人数が延べ20,000名に達している。

中学3年生学力推移調査結果

- ・中学校における学力の推移を測り、基礎学力を伸ばす取組を強化できている。

現役合格率と各種推薦進学者割合

- ・現役合格率と各種推薦進学者の割合を向上させ、生徒個々が志望する学校への進路実現が図られている。

中学・高等学校

部門目標

リベラルアーツ教育を推進し、新たなものを創造する「0 to 1」^{ゼロ トゥ ワン}の発想が育つ教育を実践する。
サステナブルな活動を通して、困難を乗り越える「心の力」を育み、国際社会で活躍・貢献できる人材を育成する。

重要施策

2

「0 to 1」^{ゼロ トゥ ワン}の発想力を培う探究学習を組織的・系統的に導入し、偏差値では測れない非認知能力を伸ばす環境を整備する

施策達成のストーリー
（現状の課題・達成後の姿）

「探究学習」については、すべての学年で行われていると言い難い状況である。そこで、中学校・高等学校とも学年ごとの「探究学習」を取り入れることにより、学習の組織化・系統化を図る。同時に、スタートアップ・コーポレート・SDGsなど様々な取組に多くの生徒を参加させる。それにより培った「0 to 1」^{ゼロ トゥ ワン}の発想力を発揮した成果を幅広く公開するため、校内外での発表機会を設け、個々のエビデンスを積み重ねていく。

評価指標

6年後（2028年度）の到達目標について

探究学習における成果発表の場の実施回数

- ・中学・高等学校に於ける学年ごとの探究学習を強化し、系統化が図れている。
- ・学年全体で取り組む成果発表の場を創設し、それが実施できている。
- ・探究学習における成果発表の場が、中学校で年間12回、高等学校で年間12回実施できている。

企業や卒業生と連携した取組数と参加生徒数

- ・企業や卒業生と連携した取組を強化し、「0 to 1」^{ゼロ トゥ ワン}の発想力を培う取組を強化できている。
- ・企業や卒業生と連携した取組数が、中学校・高等学校で年間30件に達している。
- ・企業や卒業生と連携した取組への参加生徒数が、中学校・高等学校で年間延べ2,000名以上となっている。

学校内・外でプレゼンテーションを行った生徒数

- ・「0 to 1」^{ゼロ トゥ ワン}の取組を増やし、多くの生徒が発信する機会を設けることができている。
- ・校内でプレゼンテーションを行った生徒が、中学校・高等学校で年間延べ3,000名に達している。
- ・校外でプレゼンテーションを行った生徒が、中学校・高等学校で年間延べ200名に達している。

中学・高等学校

部門目標

リベラルアーツ教育を推進し、新たなものを創造する「0 to 1」の発想が育つ教育を実践する。
 サステナブルな活動を通して、困難を乗り越える「心の力」を育み、国際社会で活躍・貢献できる人材を育成する。

重要施策

3

施策達成のストーリー （現状の課題・達成後の姿）

ユネスコスクールの取組などサステナブルな活動を通して、共感力を養い、互いを認め合う「心の力」を育む施策を導入する

校内におけるSDGsの活動や意識啓発の取組を充実させることは、学園のユネスコスクールとしての取組に参画することにも繋がり、共感力も養われる。しかし、多様性を認めるダイバーシティの考え方が浸透していない面がある。そこで、困難を乗り越える気持ちを育成すると共に、多様性を認める取組も強化し、「心の力」を育んでいく。

評価指標

6年後（2028年度）の到達目標について

SDGsを目標とした活動件数

- ・ユネスコスクールの一員として、学園全体と連携したSDGs活動やESD活動が展開できている。
- ・SDGsを目標とした活動が年間100件以上実施できている。

成蹊中学・高等学校としてのダイバーシティを踏まえた改善件数

- ・成蹊中学・高等学校としてのダイバーシティを踏まえた改善が、年間2件以上、6年間で合計10件以上実施できている。
- ・多様性を認め合うことにより、建学の精神である「個性の尊重」を具現化できている。

中学・高等学校

部門目標

リベラルアーツ教育を推進し、新たなものを創造する「0 to 1」^{ゼロ トゥ ワン}の発想が育つ教育を実践する。
サステナブルな活動を通して、困難を乗り越える「心の力」を育み、国際社会で活躍・貢献できる人材を育成する。

重要施策

4

生徒全体の英語力を向上させ、成蹊独自の国際理解教育の推進を図る

施策達成のストーリー （現状の課題・達成後の姿）

英語力の高い帰国生に比べ、一般生徒の中には英語力が弱い生徒もいる。そこで、生徒全体の英語力を向上させる取組を系統的に取り入れ、その成果を測る。そして、中学3年生以降において、海外に派遣する取組への参加生徒数を増加させ、海外でも探究的な学習が学べる体制を整備する。

評価指標

6年後（2028年度）の到達目標について

高校2年生GTEC、中学3年生学力推移調査結果

- ・英語4技能の向上を測り、それに即した授業が実施できている。
- ・高校2年生で実施するGTECにおいて、学年全体の40%以上がCEFRのB1グレード以上に達している。

派遣留学生数、受入れ留学生数、国際交流に関する国内企画参加者数

- ・留学生の派遣や受入れを増加させ、国内での国際交流に関する取り組みに生徒が積極的に参加できている。
- ・年間150名以上、留学生を派遣している。
- ・年間30名以上、留学生を受入れている。
- ・国際交流に関する国内企画の参加者数が700名以上となっている。

海外での「探究学習」の取組回数

- ・新たな国際理解教育の推進のため「探究学習」の海外展開が図られ、グローバルな視野での「0 to 1」^{ゼロ トゥ ワン}が実施できている。
- ・海外での「探究学習」の取組回数が年間5回に達している。

中学・高等学校

部門目標

リベラルアーツ教育を推進し、新たなものを創造する「0 to 1」の発想が育つ教育を実践する。
サステナブルな活動を通して、困難を乗り越える「心の力」を育み、国際社会で活躍・貢献できる人材を育成する。

重要施策

5

施策達成のストーリー （現状の課題・達成後の姿）

新しい教育に応じた教育環境を整備して、広報活動を更に充実させ、高い入試倍率を維持していく

1人1台のタブレットが出来ていない状況を変えるため、時代に合ったICT環境や学校行事が滞りなく対応できる施設・設備を整える。また、それらを活用した教育実践を幅広く公開するとともに、様々な形で発信し、広報活動を充実させる。その結果、本校を第1志望とする受験生を高い倍率水準で維持していく。

評価指標

6年後（2028年度）の到達目標について

生徒によるICTを活用した発表の場の回数

- ・1人1台のタブレットを早期に実現させ、ICT環境が整備できている。
- ・生徒によるICTを活用した発表の場を設け、その活用を推進できている。
- ・生徒によるICTを活用した発表の場の回数が、中学校で年間20回、高等学校で年間20回に達している。

学年及び中学・高等学校全体での学校行事数

- ・通常の学校行事ができる施設・設備を充実させ、学年及び学校全体での学校行事を年間90回以上実施できている。

説明会参加者数、受験者等来校者数、メディア・進学雑誌などへの記事掲載回数

- ・成蹊の魅力を発信する広報活動が充実している。
- ・説明会参加者数が中学校で6,000名以上、高等学校で1,200名以上となっている。
- ・受験者等来校者数が年間延べ20,000名以上となっている。
- ・メディア・進学雑誌などへ年間70回以上、記事が掲載されている。

入試合格最低点、入試倍率

- ・入試体制の再構築により、合格最低点と倍率の両方の維持が図られている。